

# 指導のポイント

監修：白梅学園大学大学院／無藤 隆

執筆：共立女子大学／白川佳子(ねらい)

東京家政学院大学／和田美香(導入・展開の言葉かけ)

國學院大学／吉永安里(小学校へのつながり)



『キンダーまなびきっず』は、5歳の時期にふさわしい「考える力」が育つことを目指し、「ことば・かず・くふう」の3つの柱で、子どもたちが楽しく考えることができるようなページ構成になっています。子どもが日ごろの遊びや日常生活の体験をイメージし、自然に無理なく、楽しい気持ちで取り組めるように、「ねらい」「導入・展開の言葉かけ」「小学校へのつながり」のポイントを本書では紹介しています。保育の中で子どもたちと取り組む際に、ぜひ活用ください。

## ことば(言葉・文字)

言葉のつかい方や文字の書き方、漢字の成り立ちについて楽しく学びます。

### ことば P.4~5 動詞

**ねらい** 絵を見ながら動きをまねしたり、絵と同じ動作をしたりすることを通して、動きを表す言葉である「動詞」について学びます。

#### 導入の言葉かけのヒント

「楽しそうな海の中だね。何をしているかな?」と絵を見て問いかけます。「○○ちゃんは、何をしているときが楽しい?」と、自身の生活をイメージしてもよいでしょう。

#### 展開の言葉かけのヒント

「みんなは泳いだり踊ったりすることは好きかな? 楽しそうな海の仲間たちといっしょに動いてみよう!」と誘い、それぞれの動きをまねてみると楽しいでしょう。園での活動の場合は、動きに合わせてリズムをつけて、リトミックのような音楽遊びに発展させることもできます。

#### ● 小学校へのつながり

名詞だけでなく、言葉には動きを表す語、ようすを表す語など、単語の用法によって分類ができることに気づくことは、小学校以上の文法学習、特に品詞の学習につながります。



### ことば P.6~7 形容詞

**ねらい** 絵を見てそれぞれの言葉の意味や対義語を確認しながら、ようすを表す言葉である「形容詞」について学びます。

#### 導入の言葉かけのヒント

「大きな魚が口をあぐり開けているよ。たいへん! 食べられちゃう!」と大きい魚に注目した後、「さて、「大きい」の反対の言葉は何か?」と考えます。

#### 展開の言葉かけのヒント

対義語の理解が難しい場合は、「明るくないのはどちらかな?」「重くないのはどちらかな?」と、打ち消しの言葉でヒントを示すとわかりやすいでしょう。大きい⇔小さい、長い⇔短い、重い⇔軽い等は、粘土遊びのような活動の中で具体的に確認するのもよいでしょう。

#### ● 小学校へのつながり

対義語や類義語の意味の違いに気づき、正しく言葉をつかえるようになることで、小学校の作文や算数の数量関係の文章問題(例:どちらがどれだけ多い)の学びにつながっていきます。



### ことば P.8~9 助数詞

**ねらい** 絵と言葉を対応させて、ものにはいろいろなかぞえ方があることを知り、もののかぞえ方である「助数詞」を学びます。

#### 導入の言葉かけのヒント

「みんなは、お友だちのことを「ひとり、ふたり」ってかぞえるよね」と確認した後、「では、車は?」「鳥は?」と、生活の中で身近なものについて、かぞえ方を尋ねます。

#### 展開の言葉かけのヒント

飛行機やクジラなど少し難しいかぞえ方もあるかもしれませんが、新しい発見をしたときには、「へえ、知らなかったね。こんなかぞえ方があるんだね」と、おどろきを共有するとよいでしょう。遊びや生活の中でかぞえる機会を頻りに作り、覚えたかぞえ方をいっしょに楽しんでみましょう。

#### ● 小学校へのつながり

助数詞には規則があり、そのつかい分けに興味をもつことが、小学校の語彙学習や作文での豊かな表現、日常会話でより適切な表現を用いて話そうとする習慣につながります。



# かず (数量・図形)

思考力や認識力の礎となる、数や図形の基本的な概念について楽しく学びます。

## すうじ P.16~17 かぞえ方

**ねらい** 1から10までの数を、「ひとつ、ふたつ……」という数でかぞえる方法を学びます。

### 導入の言葉かけのヒント

「わあ、楽しそうなお祭り！ みんなも、お祭り大好きだよ」と、まずは絵を楽しみます。その後、□の品物の数を「いち、に、さん……」と順番にみんなでかぞえましょう。

### 展開の言葉かけのヒント

「いち、に……」とじょうずに数をかぞえられたところで、「いち、に、さん……のほかにもかぞえ方があるけれど、知っているかな？」と問いかけます。「ひとつ、ふたつ、みっつ……」というかぞえ方に慣れてきたら、遊びや生活の中で身近なものを両方のかぞえ方でかぞえてみるとよいでしょう。

### ● 小学校へのつながり

「いち、に……」と「ひとつ、ふたつ……」という2種類の数詞があることに興味をもつことは、国語の学びへの関心、漢語系と和語系の言葉があることへの理解にもつながります。



## かず P.18~19 集合数

**ねらい** 数字と絵を一つひとつ対応させながら、集まった数をかぞえて確認し、全体の数を理解します。

### 導入の言葉かけのヒント

「みんなは金魚すくいをしたことがあるかな？ お友だちが楽しそうに金魚すくいをしているよ。さあ、お友だちは何匹釣れたのかな？ 見てみよう」と問いかけます。

### 展開の言葉かけのヒント

「あれ、金魚が足りない？」と、絵と数字の違いに気づいたところで、「金魚が逃げちゃったのかな。シールを貼って金魚を戻してあげようね」と誘います。金魚の数と数字が一致したら、「ああ、よかった。ありがとう」と、いっしょに金魚をかぞえながら確認するとよいでしょう。

### ● 小学校へのつながり

集合数は、1つ、2つ……とかぞえ上げるとよいことに気づき、日常的につかえるようになることが、足し算や引き算の計算の理解につながります。



## かず P.20~21 順序数(右・左)

**ねらい** 右と左の概念を確認したあと、右から何番目、左から何番目という順序を表す「順序数」について学びます。

### 導入の言葉かけのヒント

「右手はどちらかな？」「左手はどちらかな？」と確認します。よくわからない場合には、「右手はお箸を持つ方の手だよ(右利きの場合)」と伝えてもよいでしょう。

### 展開の言葉かけのヒント

「右から一番目は何のお店かな？」と、両側から一つひとつ確認して見るとわかりやすいでしょう。順序数についてわかってきたら、園のロッカーや靴箱などを利用して、「右から一番目は○○ちゃんのロッカーだね」などと、日常生活の中で順序数に触れる機会を増やすとよいでしょう。

### ● 小学校へのつながり

右や左、何番目といった位置や順序を理解することは、空間把握や集合数とは異なる数の性質を知ることにつながり、小学校での図形や四則計算の理解の基礎となります。



# くふう (思考・創造)

自ら考え創意工夫する力(思考力・創造力)を養い、小学校での学びの土台を育みます。

## くふう P.28~29 系列

**ねらい** ものの順序の決まりを把握して、ゴールを目指して迷路遊びを楽しみながら、規則や法則を学びます。

### 導入の言葉かけのヒント

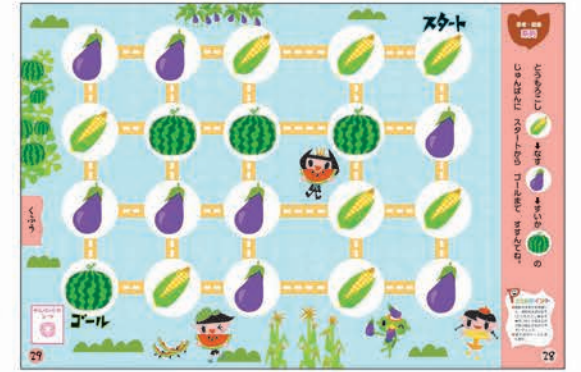
「この道はね、進む方向に決まりがある特別な道なんだって。さあ、トウモロコシ→ナス→スイカと、順番にパクパク食べながら進んでみよう！」と誘います。

### 展開の言葉かけのヒント

「トウモロコシ→ナス→スイカ」と唱えながら進みます。順番を間違えた場合には、「あれれ、寄り道はだめだよ。順番を守って食べてね！」と気づきを促します。「おいしいね」「おなかいっぱいになってきたね」などと遊びの要素を取り入れると楽しいでしょう。

### ● 小学校へのつながり

多くの情報から特定の規則を抽出し、ほかの場面に適用する力は、算数では数の規則性の理解、理科では自然のさまざまな循環サイクルの理解につながります。



## くふう P.30~31 比較

**ねらい** 4つのものを比較して、それぞれの共通性や差異性を発見し、それらを言語化する力を養います。

### 導入の言葉かけのヒント

「ひとつずつ違うものがあるみたいだよ。さあ、どれかな？」「うーん、全部食べ物だから同じ仲間みたいだけれど、さてどこが違うかな？」などと問いかけます。

### 展開の言葉かけのヒント

難しい場合には、「これは食べたときにどんな味かな？」「この生きものは、どこに住んでいるかな？」「この乗りものは、どこにあるかな？ 地面かな？ 空かな？」とできるだけヒントを出すとよいでしょう。自分で答えを見つけられた喜びを味わうと、次の問いが楽しみになります。

### ● 小学校へのつながり

物事の共通点や相違点を見つけ、言語化する力は、理科の観察や実験で時間ごとの変化や条件間の差異を見いだす力につながり、国語の話し合い活動においても不可欠となります。



## くふう P.32~33 判断

**ねらい** 絵を見比べて全体像を把握し、部分的な違いを判断して、それらを言語化する力を養います。

### 導入の言葉かけのヒント

「影絵って見たことあるかな？ このお花やクワガタ、どれが影絵になっているか、わかるかな？」と問いかけます。活動の中で、実際に影絵を見せても楽しいでしょう。

### 展開の言葉かけのヒント

全体を見てもなかなか違いが判断できない場合は、「この葉っぱはどうか？」「クワガタのハサミの部分はどうなっているかな？」と、細部に注目できるような言葉かけをします。正解がわかったら、「どうしてそう思うのかな？」と、理由を言語化できるように誘ってみましょう。

### ● 小学校へのつながり

部分と全体を把握する力は、段落相互の関係から文章全体を捉えたり、文章全体から各段落、各文の意味を捉えたりする、国語の文章読解の力などにもつながります。

